

ピアノist 館野泉さん^{たての いずみ}と行く
心に触れる音楽の旅【4日間】

芸術の秋を感じていただける音楽の旅をご用意いたしました。

初日は城下町福岡「柳川」の北原白秋生家記念館を訪れ、日本を代表する童謡のなつかしい調べに触れていただきます。

2日目は世界で活躍されているピアノist、館野 泉さんによるこのツアーだけの特別コンサートにて、叙情的で美しいピアノの音色に包まれる豊かなひと時をお楽しみください。

そして、いよいよ3日目・4日目は「ななつ星in 九州」にご乗車。

今回は館野泉さんにも乗車いただき、皆さまと共に1泊2日コースをお過ごしいた

出発日 2018年 11月15日(木)出発

旅行日程・運行ルート



※上記の旅行日程は、変更になる場合がございますので予めご了承ください。

ご旅行代金 (おひとり様あたり)

「ななつ星」 客室タイプ(列車)	ご宿泊(1日目)		ご旅行代金		
	旅 館	客室タイプ	3名様1室利用の場合	2名様1室利用の場合	1名様1室利用の場合
スイート (11室)	柳川藩主立花邸 御花	部屋指定なし(8室)	—	705,000円	965,000円
DXスイートB(1室)	天然田園温泉 ふかほり邸	部屋指定なし(3室)	—	735,000円	995,000円
DXスイートA(1室)		離れ 和洋室(1室)	785,000円	820,000円	1,140,000円
		離れ 和洋室(1室)	825,000円	870,000円	1,220,000円

※2泊目(ホテルオークラ福岡)はラグジュアリーツインまたはデラックスツインのご利用となります。



プレミアムな音楽の時間

館野泉さんによる「ななつ星」ピアノコンサート



©満田聡

館野 泉氏 プロフィール

クラシック界のレジェンド、81歳ピアノist。領域に捉われず、分野にこだわらず、人間味に溢れ、豊かな叙情をたたえる演奏は、世界中で深く愛され続けている。2002年に病に倒れ、右半身不随となるが、その後「左手のピアノist」として活動を再開。その音楽は聴くものの心に忘れがたい刻印を残す。「左手」のこたわりなど必要ない、身体を超える境地に至った「真の巨匠」の風格は、揺るぎない信念とひたむきな姿がもたらす、最大の魅力である。

essay

旅から旅へ

82年も昔、東京から室蘭まで、生後5箇月ぐらいで生まれて初めての旅をした。その頃の北海道へは丸一日がかりの大旅行。函館の青函連絡船の棧橋で母に抱かれた写真がある。母は仙台生まれだが、3歳から18歳までを室蘭で過ごし、それから東京に出て武蔵野音楽学校で学んだ。本当は絵描きになりたかったが、美術学校は不良がたくさんいるから駄目だと云われたらしい。武蔵野でチェロを学んでいた父と出逢い、恋をして一緒になった。しかし我家には結婚の記念写真などはなかったから、式はしなかったのだろう。室蘭に行ったのは両親に、この人と一緒になり、こんな子(初孫)が生まれましたと見せにいったのかもしれない。

東京から西の世界を観たのは大阪が初めて。東京藝術大学の初年だった。九州に初めて行ったのも藝大在学中。九州出身のオペラ歌手、栗林義信さんの伴奏者としてであった。九州は美しい自然の恵み豊かで、独自の文化もあるし、独立国になってもいいという栗林さんの話に驚き、生まれて初めて乗った飛行機での、上空からの眺めにも度肝を抜かれたのを、いまでもよく覚えている。その頃は飛行機もあまり高度は飛ばなかっただろう。とにかく、幼い頃から乗り物に乗ると車窓や機上、あるいは船上からの眺めに釘付けになるのだった。

演奏家の日常は旅から旅。もう60年もそんな生活を続け、隅から隅まで世界中を歩いた。だが、そんな中でも九州は特に好きで、港町長崎には住んでみたいと思ったこともある。港町には流れるような雰囲気があり、さまざまな文化が混在しているところがなんとも云えない魅力だ。

館野 泉

旅の見どころ

柳川 (福岡県柳川市)



福岡県南部「筑後エリア」に位置する柳川は、江戸時代から城下町として栄え、柳川城のまわりの堀を「どんこ舟」が暮らしの中に溶け込み、訪れる観光客は1年を通して「川くだり(お堀めぐり)」をお楽しみいただけます。柳川藩の初代藩主「立花宗茂」、その柳川藩主



立花邸「御花」は、藩主の暮らしを今に伝え、敷地内の庭園「松濤園」は国の名勝の指定を受けています。また、文豪「北原白秋」の生家に隣接する「北原白秋記念館」では、「からたちの花」「この道」「ベチカ」「待ちぼうけ」など、誰もが懐かしむ白秋の童謡に触れることができます。

